

リハビリによって身体機能を維持する入院治療へ

リハビリテーション部 主任技師 渡部幸喜

日々変わっていく医療の中で、リハビリテーションも大きく変わりました。10年前は整形外科の手術後や脳卒中後などの患者さんばかりでしたが、今は心臓系、呼吸器系、がん系など多岐にわたる患者さんがリハビリをしています。スタッフ数も3倍以上に増えました。「入院関連機能障害」という言葉も浸透し始めています。昔の入院は安静にするものでしたが、そのことで体のいろいろな筋肉が弱り、歩くことができなくなったり、退院後の生活に支障が出たりすることがありました。今、そうしたことは入院関連機能障害と呼ばれ、リハビリを含め病院全体で対策が行われ、当院でも力をいれています。

また、リハビリテーション部は他職種との連携を密にし、チーム医療の1部門に組み込まれています。私たちはカンファレンスに積極的に参加し、医療者側にリハビリの最新情報を提供しています。共同研究や理学療法士学会以外の学会での共同発表など、院外連携も強化しています。今後も日々勉強を重ね、一人一人の患者さんに丁寧な対応を続けたいと考えます。



PROFILE

わたなべこうき◎1985年愛媛十全医療学院理学療法学科卒業。愛媛十全医療学院教務科、NTT松山病院を経て1988年当院へ。趣味は洗車と料理。